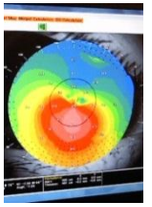
フジタガンカニュース

Vol.26 2012.11.12



「緑内障(りょくないしょう)」の通称名は「グラ」なのヨ①

今回のフジタガンカニュースでは「緑内障」を取り上げたいと思います。緑内障は英語で glaucoma(グラウコーマ)と呼ばれるため、眼科業界の我々は略して「グラ」と呼びます。(※ちなみに白内障は英語で cataract(カタラクタ)と呼ばれ、略して cat≒「キャット」(注・猫の事ではありません(笑))と呼びます。)では、緑内障と聞いて最初にイメージする事って何でしょうか？「その病気って…失明するんですよね！」☞末期の緑内障であればそういう可能性もありますが、白内障だってほったらかしていれば失明してしまいます。しっかりと診断をして進行予防の治療を行えば、すぐに失明してしまうという事はありません。「白内障のように…手術すれば治るんですよね！」☞緑内障に対しての手術治療も行われていますが、残念ながら『治癒させる目的』の手術ではなく『進行予防目的』の手術です。手術による合併症の可能性も考慮し、目薬での治療が十分でない場合に手術が必要と判断するのが一般的です。「風邪薬を飲めなくなるし、胃カメラの時に麻酔が出来ないんですよね？」☞緑内障には数種類の病型があり、その中の『閉塞隅角タイプ』の場合に、『抗コリン作用を有する薬剤』を使用すると副作用で急性発作を起こす(←後程詳しく説明します)可能性があります。『開放隅角タイプ』や『正常眼圧緑内障(＝広義には開放隅角タイプ)』の場合、通常は風邪薬を飲む事も胃カメラの時に麻酔をすることも可能です。つまり、緑内障患者さんにはご自分の『病型』を含めて病状を把握して頂く必要があるのです。

今まで僕が患者さんと「緑内障」についてはじめて会話をしてきたときの質問はこんな内容の事が多いです。一般の患者さんは「緑内障」と聞くと「性質の悪い疾患」という印象が強いようで、僕が研修医の時に「貴方は緑内障ですよ！」とお話をしたらその場で泣き出された事もありました(＞_＜)。そんな私が「緑内障の診断がついて初めての診察に際して、患者さんに伝えたい一番大切な事」とはなんでしょうか？確かに緑内障は、発症すると基本的には治癒しない疾患です。しかし 21 世紀の現代においては数々の優れた薬剤が開発され、手術の方法もある程度確立されつつあります。つまり、初期のうちに発見してキチンと進行予防治療をすれば、日常生活に際して視覚的な不利益を被らずに一生の人生を全うできる可能性も十分にあるのです。私は常々、こうした緑内障に対して一般の方が誤解していらっしゃる事の多い部分について、噛み砕いた説明をする必要があると感じていました。今回号からの一連のフジタガンカニュースでは、以上のような目的で筆を執らせていただきたいと考えています。(全 5 号を予定しています)

しかし、まずは「緑内障という疾患の基本」についてご理解を頂かないと誤解を解くこともできません。インターネットをご利用できる方は以下のページをご覧ください。

http://www.nichigan.or.jp/public/disease/ryokunai_ryokunai.jsp

日本眼科学会のホームページ上の分かり易い解説です。しかし、中にはパソコンが苦手な患者さんもあると思います。そこで、今からフジタガンカニュース上にその解説の全文を掲載します。つまり、これ以降全て引用の図及び文章となりますので、ご承知おきください<(_ _)>。

＊＊

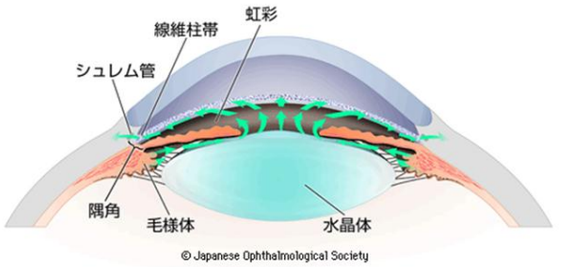
■はじめに

緑内障は、厚生労働省研究班の調査によると、我が国における失明原因の第 1 位を占めており、日本の社会において大きな問題として考えられています。しかも最近、日本緑内障学会で行った大規模な調査（多治見スタディ）によると、40 歳以上の日本人における緑内障有病率は、5.0%であることが分かりました。つまり 40 歳以上の日本人には、20 人に 1 人の割合で緑内障の患者さんがいるということになります。また緑内障の有病率は、年齢とともに増加していくことが知られており、日本の少子高齢化に伴って、今後ますます患者さんの数は増えていくことが予想されます。しかも上記の調査では、発見された緑内障の患者さんのうち、それまで緑内障と診断されていたのは、全体の 1 割に過ぎませんでした。つまり、緑内障があるのにもかかわらず、これに気づかずに過ごしている人が大勢いることも判明しました。最近の緑内障の診断と治療の進歩は目覚しく、以前のような「緑内障＝失明」という概念は古くなりつつあります。現代医学を駆使しても失明から救えないきわめて難治性の緑内障が存在することも事実ですが、一般に、早期発見・早期治療によって失明という危険性を少しでも減らすことができる病気の一つであることは間違いありません。

■房水と眼圧

「房水」とは目の中を循環する液体のことで、図 1 に示されているように、毛様体という組織で作られて、虹彩の裏を通過して前房に至り、線維柱帯を経てシュレム管から排出され、眼外の血管へ流れていくという定まった経路で循環しています。この房水の循環によって、ほぼ一定の圧力が眼内に発生し眼球の形状が保たれます。この圧力のことを「眼圧」と呼びます。つまり、眼圧とは、眼の硬さであるといえます。眼圧が上昇すると（眼球が硬くなると）、視神経が障害されやすくなり、緑内障になるリスクが高くなることが知られています。緑内障の治療としては、薬物療法、レーザー療法、手術療法など多彩な手段が行われていますが、その多くは、眼圧を下げることで緑内障の悪化を防ぐためのものです。したがって自分の眼圧がどれくらいであるのかを知っておくことはとても大事です。＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

図1．房水の循環



以下次号に続きます、お楽しみにー(^_^)/。

追伸：フジタガンカホームページにスマホ専用サイトが出来ました。

スマホをお持ちの方は是非アクセスを！

年末・年始休診スケジュール

	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
AM	○	×	×	×	×	×	×	○	○
PM	×	×	×	×	×	×	×	×	×

※×・・・休診　○・・・通常診療

今月のお知らせ

既にお気づきの方もあるかもしれませんが、この10月からJR八王子駅構内(改札を入ってすぐの所です)に藤田眼科の宣伝看板を出させて頂いております。右田病院の看板撤去に伴っての掲出です。かなり目立ちますよね(^_^;)。駅にお立ち寄りの際は是非ご覧下さい(^_^)ゞ。

携帯サイト用 QRコード　mobile phone

スマートフォン iPhone用 QRコード　smart phone

http://www.fujita-ganka.com

FUJITA-EYE-CLINIC 藤田眼科

エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売) F-Vision

✆042(645)0575

✆042(642)2911